夕刊 磐城新聞
三月五日發行
日曜祭日翌日休刊

創始後卅年の歴史を持つ郵便振替貯金

平郵便局

四

三、口座の金を拂出し加入者自身又は加入者の指定した人が現金を受けること、之を『拂出』と言ふ

例を擧げて說明すれば

或人が雜誌を注文する爲めに雜誌社の口座に入金を請求したり又其の雜誌社から爲替で送つて來た雜誌の代金等を自分の口座に入金するやうな場合が拂込である

次に口座振替は、雜誌社が印刷屋に印刷代を支拂ふのに自分の口座から支拂額丈を印刷屋の口座に移し替を請求するやうな場合であつて、又外國振替は佛蘭西へ雜誌を注文するの[illegible]代金を自分の口座から先方のパリー何番かの口座に移し替を請求するやうな場合である。拂出は雜誌社が原稿料を支拂ふ爲めに執筆者宛に自分の口座から金の支拂方を請求したり、又從業員に給料を支給する爲めに自分で金を引出すやうな場合である

振替貯金の利便と特色

振替貯金は此の樣な仕組になつて居るが其の特色利便を擧げやう!

イ、現金受授の面倒と其の保管の危險とを避け得られること

總て帳簿面の計算で取引を了へ殘高と基本預金には利子を附けて(年二分四厘)保管され現金を使ふ面倒と危險がない

ロ、送金方法として最も安全なこと

送金するには現金を送つても或は爲替で送つても途中の危險[illegible]振替貯金に依る[illegible]途中の[illegible]總て郵便官署の責任處で理せられるから一切心配がない

ハ、取扱機關である所の郵便局が全國に普及して居るので利用範圍が極めて廣く他に比類がないこと

郵便局は現在內地丈でも一萬餘もあつて全國都鄙に普及して居るから、銀行其の他一般の金融機關の設備のない田舍の地へも容易に取引が出來て大變便利である

ニ、料金が廉く納付方法が簡便なこと

拂込、口座振替、拂出其の他總ての料金が非常に廉く其の大部分は口座から差引く仕組になつて居るから送金人も受取人も相當手數が省ける

磐城歌壇

新妻久長選

〇飄々と[illegible]雪に[illegible]つ向に[illegible]たゞみかけたる雲は動かず

〇降る雪の積りを堪えて枝と枝、かたちながらのまゝにたゆたう

〇うすうすと窓を漏れ來る灯明りの、流れに見ゆる寂し雪影

〇雪明り遠目はるかに展けつゝ、夜はひそかなものとなりたり

〇ふつつりときれ行く三味の音の如く、むなしくなりて酒にひたれり

小評 何れも一寸變つた表現で試みられてゐる。第一首『飄々と』はそぐはない『たゞならず』も別な詞がいくらもあるだらう。下の句は(あらけづり)であるが、反つて大膽にぶつつけたのは面白い。第二首は內容と調子とがぴたりと落ちつかない。調子が强過ぎる爲か。第三首、第四首は佳い歌である。但し三首の結句『たゆたふ』は再考を要するし、四しゆの結句『寂し雪かげ』の『寂し』といふ主觀は省いた方がよい。最後の歌は上の句が所謂歌序として、內容は『空しくなりて云々』であるが、序が適切でないと思ふ。

時感

珠雲 小野務平

外唱和平內攘戈
恩讐翻覆覺如何
薗淸不識何時就
利慾名聲逐鹿多

小曲……白木蓮

矢萩壽子

滑らかな梢に
仄かに匂ふ木蓮
その白い花瓣は――
憂ひに沈む
十七乙女の頰を思はす
空に――
蒼白い夕月が
そつと息づく

涙

日暮れに――
女の兒が泣いてゐた
たつた一人ぼつちで
プラタナスの木に凭れて
可愛い瞳から
ぽろんとこぼれた涙が
乾いた土に吸はれて消える
そう〳〵小犬が
首をかしげて見てたつけ

3月6日 △鎭西八郞源爲朝伊豆に自决(安元二)△一伊のミケランジエロ生る(一、四七五)△獨總選擧(昭和八)△原脩次郞逝く(同九)△國民政府正式排日取締發令(同一〇)

季節の齒車

早崎夏衛

5

勿論考へれば解ることなので、つまり、CRITIC F AUFFINDERなる語を、萬國音標語で書いたに過ぎないが、さて、かように正確なる發音からして敎へて呉れることは、實に間接的でまはりくどくて、ふかなさけに過ぎた迷惑なことであるやるせなき對象の文章には怖らくかうした一例のふかなさけをにじませてゐることだらう

一體音樂とか繪畫とかによつて直接指導されるのに較らぶれば、文字といふ介在物を通して意思を表示されるのはひどく間接的なのだから、加へて、殊更ひきずりまはしてむつかしく申逃べられてはたまつたものではない。むかし、新潮社から『日本詩人』といふ誌の雜誌が出てゐた時分、たしか橋爪健氏だつたと思ふが、金子光晴の詩に、もつとわかりよく書いて貰ひたいと希望を述べてゐるのを見て、ひどいことを云ふものだと思つたことだつたが、これにくらぶれば、僕が文章をやさしく書け、理窟を素直に筋立てよといつたつて無茶な注文ぢやなからう

歌人は散文をもつて社會の上層をおよぎまはつてはならぬ。いのちは作品である

だいたい短歌理論などは一般世間のひとびとは見むきもせぬもので、且、歌壇人にしてすらがまじめにこれを研究勉强してゐさうなない。結局極めて少數の心ある者のみに止まるからその範圍を宛とするならどうでも好い。が、新らしい理論の主張でも、又、既に發表された他人の多岐多種の論理を自分のもつひとつの立場から取捨統一したもので貰らはねば努力の甲斐がないといふものである。だからなるべく難解な文句は避けて、解りよくひといきに筋の通つた文章が必要とされる

◇▽……△◇

講談 黃金魔刃

(92) 高桑義生作 樋口悅也畫

感傷の曲(七)

『それでは飯でも食はう』

と、東左衛門に三人のほかに店の主なる者をつれて名代の料理屋道修町の八百源に出かけ、飯をすまして稻荷山の別莊に歸へつたのが五つ半

まもなく寬之助は東左衛門によばれて行くと座に錦藏がゐて

『御主人からお許しが出たのだ。御挨拶申しあげるがいゝ』

といつた

寬之助は頭をさげた。東左衛門は

『俺から何もいふ事はない娘の命を助けた手がらと差引勘定だ』

で、あらかじめ包んで置いた金包を取出し

『これは路用だ。五十兩ある。不足はあるまい。餞別としては大小二口衣服ひと揃へ、箕部氏かくべつの口添へによるのだ。お禮を申せ』

錦藏はかれの傍に置いてあつた大小二口の刀を寬之助の前に押しやつた

『わしが選んだものだ。肥前の武藏大椽忠廣、差添は主水正正淸、これだけでも大した値打物だ。衣服はあちらに取つてある。好意を忘れてはならん』

『……』

『よい思ひつきであらう。世間を忍ぶお前にとつて、侍姿がいちばん都合がよからうと考へたのだ。幸ひいくらか武藝の心得もあるし刀を差して腰のふらつく心もあるまい』

寬之助はたゞ意外の氣持で、目の前の刀をながめた

『今夜これからすぐに立退くがよい。何處へ行かうと何をしやうとお前の自由だ東左衛門は何も仰られぬ。わしも何もいふまい。訊くまい』

寬之助は何と答へていゝかわからなかつた。恐らくは不染に對する誓を强要されるのだらうと思つたが――かうさばけて出られると何もいふ事がない。むしろ濟まないと思ふのだ

『不足か?』

『いゝえ』

『では、お禮を申し上げて夜も更けぬうちに出かける事に……』

『はい、有難うございます!』

寬之助は別れを述べて金包と大小を持つて立つた。錦藏もいつしよに、彼を一室に導いて、いつ用意して置いたのか、みだれ箱にそろへた衣服、羽織袴、みな立派なものばかり

『着替へるがよい。身に合ふやうに新しく作らせた。似合ふかどうか見てやらう』

寬之助は武士に變裝することなど思ひもよらなかつたが、いはれて見れば、なるほど都合がよいかも知れぬ。で、遠慮なくそれを着ることにした。袴をはき羽織を着、大小を差して見た

『おゝ、こりやア立派なものだ。さうした處は何千石の旗本の若殿ぶり、見違へたぞ。すばらしいものだ。これでは誰でも見違へる』

と錦藏はいふ。

寬之助はなんとなくうしろめたい氣持がした。かうして人を僞るのだ。武士ではない武士の姿――これも惡事ではないだらうか

だが、氣持ではないのが人間だ

『そこまで見送つてやらうわしと東左衛門殿のほかは誰も知らない。こつそり附いて來るのだ』

錦藏にいはれて寬之助は彼のあとに從つた。誰にも逢はない。外に出ると

『これを冠らがいゝ』

と渡されたひとすぢの布で顏をつゝむものだ

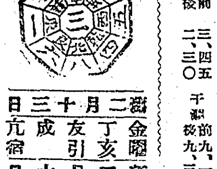
『では別れよう。達者に暮せ。また會ふこともあらう!』

今宵は曇つて月がない。しいんとした道を、寬之助は一人になつて、あてもなく步き出した

六日 (小名濱測候所調查)

日出 六、〇一 月出後 三、五六
日沒 五、三六 月沒前 四、三八
滿潮 前 三、四五 後 二、三〇
干潮 前 九、一五 後 九、三〇

新三月六日 金曜 丁亥 舊二月十三日 友引 成 亢宿



暦判定應需 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 ちうちよすれば好機失はる諸事進んで効あり ▲二黑 小事と雖もないがしろにすれば後日に悔を遺すべし ▲三碧 萬事手違への生ぜんとする日思慮分別大切 ▲四綠 進むに過ぎざれば相應の利得ありて繁昌す ▲五黃 緊張して事に當れば安全氣ゆるみに不利起る ▲六白 思惑は意外の失策を招く定業を守るに安全 ▲七赤 望のみ大にして實せきの伴はざる日進むは凶 ▲八白 着實熱心なれば福祿を握るも間もあらず ▲九紫 陸路此の上もなく諸事順調にして大利を收む

電話買取度し 賣希望者ハ申出ラレタシ。 姓名在社

安くておいしい コロツケ 金十錢で六個 毎月一日、十五日は サービス、十錢で七個 牛肉 豚肉 櫻肉 卸 販賣 一丁目 武田肉店

三十一回生徒募集 躍進日本の女性に!! 婦人の職業として 産婆看護婦を御奬め致します。それには成績の最もよいと定評のある 平南町 産婆看護婦學校へ ◇申込み成るべく早く ◇新學期の開始は四月八日より 平産婆看護婦學校 校長 淸野キヨ子 (電話三〇七番)

夜間 診療 胃腸 性病 專門 內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科 (見習看護婦募集) 松村胃腸性病科醫院 (平町南町 電一〇七番)

磐崎村白鳥鑛泉 喜樂温泉

耳鼻咽喉科 高柳醫院 平驛前 (電三三六) 醫學博士 高柳博明 (入院應需 自炊ノ便アリ) (看護婦募集)

社員採用 固定給參拾圓外手當支給 二十才以上五十五才迄 希望者は履歷書持參本人來談 公債 社債 現物賣買 擔保貸附 平町鍛冶町十八 日本商事株式會社平支部

高久病院 平町田町 (電話五三一番) 醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤羽荷 藥劑士 佐竹菊雄 內科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

しもやけ家傳藥 是マデしもやけハ暖カクナラネバ治ラヌモノト諦ラメテ居ツタノガ一日二三回二三日ノ御使用デくずれたしもやけモ忘レタ樣ニ完全ニ治リマス 現今ノ塗藥ト異リ罨法ニヨリ根本カラ除去スルモノデアリマス。しもやけハ寒サノ爲ニ皮下毛細血管ガ障害ヲ起ス爲ニナルノデ塗藥等デハ決シテ治ルモノデハアリマセン、又くずれたしもやけニ塗藥デハ塗布ト同時ニ痛ミヲ感ジタリかゆみヲ增シタリ致シマスガ此藥ハ無刺戟ノ中ニ心地良イ罨法ニヨリ皮下ノ血行ヲ良クシ幼キ御子樣方ニモ喜バレ如何ニくずれたしもやけデモ完全ニ全治致ス事保證致シマス 是非一度御試シ下サイ。 東京丸弁邦寶堂 福島茨城兩縣特約 平町一丁目 伊藤石炭店 電話三四九

おでんとやきとりで お氣輕に一平(イッペー) 五日開店 出前迅速 谷口通り 一平 電話二六三番

耳鼻咽喉科專門 病室完備 自炊ノ便アリ 平町田町 (電六九一) 醫學士 山內亨吉 山內醫院

茶道 裏千家 華道 末生流 小原流 格花 盛花、瓶花 敎授いたします……。 稽古日は 茶道…月六回一、六日 華道…毎週土曜日 ◇出稽古も致します。 場所 平町字二丁目常陽銀行橫 地球堂書店內 裏千家 末生流 小原流 比佐宗弘

平の小學校に學んだ 輝かしき武人西大將

揚土台に溢るる笑顔

新教育總監

陸軍參議官大將西義一氏は今回の事件で斃れた渡邊錠太郎大將の後を襲ひ皇軍育成の慈父教育總監となつた、

元平町議柏嶽員吉氏は小學校(平)中學校(安積)ともに二年上級の親しい間柄で現今に至るも親交を續け氏を知る唯一の地方人である

大將は人も知る如く會津若松の生れ、而して少年時代平の小學校に學んだことがある、一昨年十一月大將に進級した現役大將中の最年少者、本縣としては四人目の大將である、氏は白虎隊で有名な會津藩士忠義翁の長男、翁島と號し去る滿洲事變に於ては第八師團長として勇猛果敢な皇軍を率ゐ熱河戰に獰惡なる匪賊を討つて戰歷を輝した古武士的風格の持ち主である

新教育總監(明治十一年一月若松に生れ)は明治廿一年當時郡書記として在平の會津藩士相馬氏下にあづけられ平第一小學校當時の平高等尋常小學校に入學、翌廿一年より二年間在學した、當時の同級生には町議坂本除藏氏を始め小泉英次、上坂賢次、白土勝次、佐々木善作の諸氏がある、後若松、福島と轉じ、同二十四年安積中學校當時の縣立尋常中學校に入學、宇都宮に轉じ卒業、同二十九年士官學校を進み日露戰爭には大尉で從軍した

大將は既報の如く平第一小學校在學當時をなつかしみ原氏を介して『至誠通天』の書を揮毫、今その筆力雄健な篇額は同校講堂に掲げ

榮進を祝す ―第一校から祝電―

前記の因緣ある平第一校では今五日西大將宛『至誠通天』の題句その儘の榮進を喜び『閣下の御榮進を祝す』の祝電を發した

「御時世ですネ」 世智辛い― 傭人と樂器に稅金

平町で該當者調査

縣には新豫算の財源捻出のため新に傭人、ピアノ、オルガン、蓄音器の四稅目を設定、愈々十一年度より課稅する事[illegible]が該當者を今五日町內各部[illegible]提出するよう夫々通牒を發し町でも來月に入り早々縣稅出張所員立會の下に調查を開始する事となつた稅額は本稅並に附加稅を合し蓄音器一圓八十九錢、傭人一圓七十八錢、ピアノ十八圓九十錢、オルガン三圓七十八錢 未だ正確な數字は判明せぬが町當局で調べた概數は蓄音器九百臺 傭人百名 ピアノ八臺 オルガン十五臺でピアノ、オルガン所有者(學校教會等を除く)は何れも醫師である、尚(傭人稅)專ら家事に從事し雇傭する者に[illegible]年未滿若[illegible]又は不具[illegible]を除く(ピアノ、オルガン、蓄音器)廻轉盤面七吋以下及び盲人の所有する蓄音器には課稅されない 右新課稅に關し町當局では語る

平町の該當者は何れも生活に餘裕を有してゐる人達で大した苦痛ではないだらうが、炭礦長屋や活動寫眞もろくに見られない山間部の人達は一人で蓄音器を買ふのも大變ですからだん〳〵共同出資で買ひ込み巡回で樂しむ事になるだらう

收入役講習會 縣で

は町村の最近就任したばかりの收入役に就いて町村財政の扱ひ方を敎わ込む事となり明後七日平町にこれが收入役講習會を開く

・。・。・。平機關庫優勝

水戶運事主催水戶、平、大子三機關庫の投炭競技は去月二十八九の兩日水戶大子、二、三日平で行つたが團體では平機關庫が優勝、個人では平から一等木幡敏藏、二等に大和田宗平の兩氏が入賞した

凶作工事督勵 縣の係官來郡

平土木監督所管內に於ける第二次凶作對策工事は今月末迄の竣功期を控ね目下各方部共着々進工を見てゐるが愈々期限も迫つたので縣土木課丹野主事、猪股篤、草野技手の一行が昨四日來平、七日迄工事の督勵を行ふ事となり今五日小林所長の案內で三阪、澤渡方部へ向つた

平撞球場記念大會

平町田町平撞球場は改築五周年記念撞球大會は七日正午から同所に於て開催するが酒、折詰、權利十本付會費金五十錢で賞品一等より十等迄、猛者賞一等より三等迄であると

工費約九千圓を投じ 國寶阿彌陀堂修築工事成る

來月中竣功式擧行

內郷村白水の國寶阿彌陀堂修築工事は昨年三月着工、以來文部省乾、縣江島兩技師監督並に遠く京都から招いた宮大工により
本堂屋根葺替(工費七千三十九圓)監視舍十八坪(同九百圓) 火防用水池(六百圓)
本堂前木橋架替(百五十圓)
の諸工事を進めてゐたが此程愈々竣功を見たので來月中落成式を擧行すべく目下諸般の準備を進めてゐる
尙內郷村では今後堂の維持を圖るため此程の村會で保存會を設立、會長沼田村長を始め役員を選任した

武德支部 劍道昇段者決る 郡內から二十六名

大日本武德會支部の劍道階級試驗は去る一月二十六日平署で小川本郡地方の分を島田その他師範立會の上執行されたが一昨三日夫々發表、昇格された昇格者は左の諸氏である

△三段 好間栗城眈 平齋藤貞正 平署室井誠吾 同渡邊溫 平桐原英純 赤井大友能一 平齋藤貞信

△二段 磐中伊達賴弘 同柴田悠 平商齋藤一夫 同若松一郎 平署渡邊良夫 赤井矢野淸市 平志賀義一

△初段 磐中大和田一雄 同樫村洋 同永山眞雄 平商鈴木武夫 同相良豊吉 同牛久隆夫 同久田定雄 同須藤良平 赤井谷義夫 好間前松鑛 同川島誠司 勿來遠藤武

日用品物價 平町役場

去月末現在調查の日用品物價左の如く前月より木炭が一貫目二錢乃至五錢の値上り其他は大差ない

白米一等一キロ二二錢 二等二一、五 三等二一 白麥一二、五 平麥一六 五 味噌並一貫目五五、五 醬油一升四五、清酒一○○ 木炭楢丸一貫目二八 木炭楢割同二三 雜丸二四 砂糖白百匁一五 赤一三 豚上四○ 並二五 牛上五○ 並四○

仲裁を拒まれ 相手を―手斧で一擊!

內郷にまた血の慘劇

內郷にまた血の慘劇――內郷村大字宮宇竹の內七三坑夫渡邊勝秀(三三)は昨夜六時頃同村字平太郎四二元坑夫吉田耕作方で小名濱町西町魚行商渡邊大吉(三八)等と酒を呷りながら花賭博開張中大吉が同席の同村飯島某(五七)と些細な事から喧嘩を初めたので勝秀が仲裁に入つた處大吉は『人の喧嘩に出しやばるとは何事だ』と勝秀の頭部を毆つたので勝秀は憤慨自宅から作業用の手斧を持つて來て大吉の左コメカミ部に一擊を加へたがこれにもひるまず大吉が抵抗して大格鬪となつた處ヶ急報により馳せつけた平署員に檢擧された

犯人勝秀は 殺人未遂? 同席者行方を晦す

平署では直に犯人勝秀を檢擧目下齋藤司法主任係り取調中であるが殺人未遂として送檢されるらしい、被害者の大吉の傷は外部から口中に迄通つた程の重傷で目下同村島田醫師の手當を受けてゐるが意識不明尙同席の飯島は昨夜來姿を晦してゐるので同署でも參考人として取調べるべく目下同人の行方を搜査中であると

座敷は血の海 吉田方では語る

兇行の演ぜられた吉田耕作方では當時の凄慘さを語る
勝秀さんが一たん家に歸つたので安心してた處へ再び現れて大立廻となつたのです、座敷中は血の海のやうだし、その最中に爐端のガン〳〵がひつくり返つて危く子供等迄が大怪我をする處でした勝秀さんと大吉さんは今までも自分の家で飲み合つた事もありましたのに……

家出、二人娘

レヴユーガールに憧れて

植田町大字高倉字鶴巻正木秀吉三女みつ(一七)同町八幡通り八代やゐ三女とり(一六)の兩名は去る三日同町で興行した天勝一座にあこがれ一行と共に浪江町に行つた處を親許からの搜索願で浪江署員に取り押へられ家族のものに引渡されたが同署に保護中も『どうしてもレヴューガールになる』と駄々をこねて署員を手古摺らせたと

驛前鋪裝續行

平驛前よりマルトモ書店に至る町道の鋪裝工事は昨冬その一部を施行、驛前よりコンパル迄の殘餘區は年末の關係から工事を延ばしてゐたが愈々五日より着工、今月末迄竣功するので工事中の二十七日間は交通禁止

第三校通學道路改修

新學期迄の竣功に 地元民から喜ばる

平第三小學校前通學道路は從來幅員僅か一間餘りで兒童の增加によつて交通も不自由なばかりでなく過般の火事に際して自動車ポンプも通れなかつた程の狹隘さに地方民からこれが改修を叫ばれてゐたが愈々町では地元寄附金も纏まつたので此程着工、目下工事を急いで居るが新學期までには出來上ると
工費五千五百圓 延長百八十三間 幅員三間 道路の兩脇はコンクリートで固める筈

先進都市を視察し 合併の態度決定

平窪委員近く出發

平町の隣接村合併交渉はさきに委員から夫々一と通りの折衝を進めたが何せ被合併村にしては村の存廢にも拘はる大問題だけに直に向背は決定されず、平町としても近く更に第二段の方針を定めるものと觀られてゐるが最初から贊意をほのめかしてゐた平窪村では其後一部から更に考慮の餘地あるとの意見も出てゐたので此程開かれた豫算村會に協議題として提案種々協議した結果近々中議員中より委員を擧げて一と先づ先進都市を視察研究する事になつた

選手は去り行く

晴の卒業に一沫の寂寥

高月台 運動陣營 上

磐城中學校の第三十六回卒業證書授與式は愈々明後七日午前十時から擧行される過ぎ去つた五星霜は或は一炊の夢であつたかも知れないが彼等百八十九名の胸裡には燕去雁來の逝きし日よりも今は四面に雄飛せん圖南の思ひに燃えてゐることだ――校友會各部に得意の腕を揮つた者も少くはない……

庭球部 福島高商の關東北選手權に强豪山形中學を破り縣下中等校大會決勝並に東北學院の北日本決勝に平商岩佐本田組と庭球いはきの强力を見せ、庭球聯盟の全日本中等府縣對抗に軟式王國岡山軍を一蹴して斷然全日本中等軟式の最高水準を行く妙技を檜舞台に演じ、神宮選手權では准決勝に惜しくも敗を喫したが『フオアバンド猛球は未曾有の凄味』ありと絶讃された宮川登、大谷德男兩君の名コンビは副將の水野淸八君と共に中等庭球界を去り來年度の球界は平商の名コンビも去ることとて一沫の寂寥をなげてゐる

野球部 强肩好投の投手石川福太郎君、石川君をリードしてよきバッテリーと謳はれた佐藤健治捕手、敵手を畏怖せしめた强力外野陣遊擊上坂昇、左翼草野泰昌、中堅阿部順吉並に柳澤一郎右翼井の六名を見送る。此の部のうしろ姿は昨年の平商軍に似て居はしまいか、縣下大會に白河中學を十七對二コールドゲームで粉碎優勝候補の保原中學を十二對零同じくコールドゲームで零敗せしめベストフォアに入つて東北大會出場權を得、准決勝安積中學に十三對十二惜しくも破れ東北大會では米澤中學を一蹴、准決勝福島師範に玉碎されて無殘甲子園行の夢破れた傳統の强力軍ではある秋山、長瀨、矢代その他諸君の奮鬪を望む

水泳部 誕生日なほ淺く而も各地水上競技に出色の成績を表してゐる此の部の今年は前後僅か二回の遠征だつたが片は關東の雄豪千葉中學に(於水高主催近縣中等水上競技)片は東北の老巧福島商業に(於二高主催關東北々準道中等水上競技)何れも得點の差僅少で二位を甘受しなければならなかつた、此部から巢立つ吾等の『河童』には自由型の若松正君、繼泳の佐藤利夫君それから自由型の小金森卓衞君がある

美術部 創立四十周年を迎へ記念祝賀綜合美術展を催しこの部としては特記すべき年であつた、X會を巢立つ彩管の若人には日本畫『山吹』を物して美友會賞を贏ち得た箱崎彰君、その他に鈴木謙司、小林房治、小沼武、中澤登、川島正巳、鈴木弘の諸君がある(J)

◆……▲――◇

近藤七郎畫伯

故白井博之、近藤利兵衞兩氏の令弟なる七郎氏は昨四日午前零時四十分急性肺炎にて急逝したが、氏は北大卒業後臺灣拓殖株式會社重役であつた後先代近藤利兵衞氏の懇望により同家に入り蜂印ブドー酒の經營に參劃し將來新進實業家として囑望せられたが美術界に志しフランスに遊學滯佛七年、歸朝後は二科會の中堅會員として其の雄渾なる筆致は斯界の推稱措かざる處であつた、行年四十八歲、猶葬儀は來る七日東京小石川區第六天町五十番の自宅に於て執行すると

セキネ式 出張大賣出し

場所 平四丁目マルトモホール
日時 三月六日 當日限り日延なし(自午前九時至午後四時)

現品總陳列 …販賣方法… 現金分引なし

正札附き 現品總陳列…大特賣品
セビロ地、スプリングコート地、ギヤバヂン紫黑スル、紺黑サーヂ、ドレン地、縞ズボン地、其他ハンパモノ小切類

◎特別サービス!! ……旅費贈呈……
會場以外の地方より平市に御出掛けの御方に
◇金五十圓以上御買上げのお方に 三等汽車賃片道相當代
◇金百圓以上御買上げのお方に 三等汽車賃往復相當代
◇金二百圓以上御買上のお方に 二等汽車賃往復相當代
(但シ平―水戶間旅客運賃規定ニ依ル)

…御食事券…
會場に御食事所が御座います。金拾圓以上御買上の御方に御食事券を呈上致します。

必ず儲かる品ばかりお知合の方御誘合せ御來場の程を……!

磐城洋服技術同盟會

ミシン 學生募集

◇地方唯一の洋裁專門學校
新學期 四月五日 申込は今―絕好期
氣安く習へる個人的敎授

磐城女子洋裁學院

ミシン使用無料材料貸與
本校は學費の要らぬ學校
新設―夜間敎授
……規則二錢切手要す……
平町二丁目二番地

母イセ儀病氣之處療養相不叶三月五日午前一時死去致し候間此段以紙上辱知諸彥に御通知申上候
追而來る七日午後二時自宅出棺九品寺に於て佛式に依り葬儀執行仕り候
昭和十一年三月五日
諸橋敬一郎
諸橋武
親戚 諸橋久太郎
總代 山下芳明

御會葬御禮
三月五日
鈴木彌太郎